

Business Risk Management

リスクマネジャーのための情報誌

2006

12

December

第1特集 PRM 企業リスクマネジメント

事例に学べ!

トップ企業の 現場力

第2特集 MCO 企業内コンサルタント養成

究極のノート術

マインドマップ入門

【好評連載】

私のミドル時代

株式会社ナルミヤ・インターナショナル 代表取締役社長

成宮 雄三氏

業界別リスクマネジメント講座

保険業界編③

リスクマネジャーのための法律講座

これだけは知っておきたい
金融商品取引法のポイント



Q & A

手術・検査の インフォームドコンセント

Q

医師が患者様に余計な心配をさせてはいけないという配慮から「とりあえず検査しておきましょう」と軽く言葉を交わしただけで検査を行い、事故が発生しました。事故そのものの過失は医療機関側にはありませんでしたが、この場合医師の責任は問われるのでしょうか？

A

結論から言えば、医師の責任は問われます。医師は患者様に事前にどのような目的で検査を行なう必要があるのかを説明しなくてはなりません。検査によって予想される危険性、麻酔を必要とする場合にはその方法なども説明し、患者様の同意を得る必要があります。

手術の場合も同様です。危険性、感染症の可能性、疾患部の手術範囲、おおまかな手術時間、術後の状態、治癒に要する期間、手術をした場合としなかった場合のメリットとデメリット、成功確率などについて説明が必要です。検査や手術を行なうことによって起こりうる危険性については説明した上で同意を交わすのが基本です。

ただし、注意しなければならないのは患者様の心理状態についてです。不安感や恐怖感、さらには混乱状態にある患者様は多いものです。

通常の判断ができるとは言えない心理状態にある患者様に対して「この手術は危険性がありますが、受けますか？」と言っては、患者様が「はい、お願いします」とは言えないでしょう。

できる限り分かりやすく、手術や検査を受けなかった場合にどのようなリスクがあるのかについても示していく必要があります。

右下の図表をご覧ください。

縦軸に「顕在的」と「潜在的」、横軸に「現在」と「将来」をとりました。これは患者様と専門家の視点の違いを表わしています。

患者様の多くは現在の自分に顕在化している状態を認識しています。痛みがあるとか、吐き気がするなどの症状を訴えている状態です(①)。

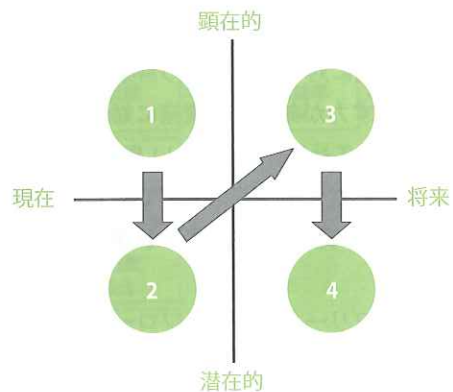
これに対して医師は現在の潜在化している問題を探ります。痛みの原因は何か、吐き気の原因は何か、隠されている病原は何かを検査などによって知ろうとします(②)。

検査によって潜在化している問題が分かると、さらに将来起こりうるリスクについて予知します。このまま治療をしないと顕在化する問題は何か、治療をした場合に顕在化するリスク(例えば後遺症など)は何か、あるいは患者様にとってのメリットは何か、を分析して示します(③)。

最後に専門家として将来起こ

りうる潜在化する問題は何か、もしかしたら起こりうることとしてどのようなことが隠されているかについて医師は予測し、患者に説明することになります(④)。

以上のような①から④のステップでインフォームドコンセントを行えば、患者様は比較的混乱することなく問題を整理できます。将来起こりうるリスクと手術や検査をした場合のメリットを検討することが可能になるのです。



PROFILE

株式会社フォーサイトコンサルティング/代表取締役社長

浅野 睦 Makoto Asano

丸井・ブルデンシャル生命を経て、コンサルタントとして独立。業務改革、営業戦略、リスクマネジメントを中心に、一般企業から医療法人など、幅広くコンサルティング活動を展開。リスクマネジメント協会理事。

